

一学期末問題（第二回）国語 小六

【児童用】

■正答

- 一 1 Aさん：エ Bさん：ウ （二つできて正解）
- 2 （例） （仕事のしうかいや、委員会の役立っているところだけではなく、図書委員会に入って、成長したと感じたことについても取り上げていた（ので、説得力があると思いました。）

- 二 1 ① ウ ② イ （二つできて正解）

- 2 農地にするため（七字）
- 3 （例） 祖先を敬うために、モアイ像を製作すること。（二十一字）

■考え方

- 一 1 AさんとBさんのアドバイスの中の理由を表す言葉「うので」に着目することが大切です。
- 2 Cさんが山口さんのスピーチのどの内容に注目してアドバイスをしているのかを確かめましょう。Cさんは、山口さんのスピーチの「まず」と「次に」ではじまる段落に注目しています。ですから、□に入る内容は、山口さんのスピーチの「最後に」の段落についてアドバイスしようとしていることが分かります。

- 二 1 段落と段落の関係を考え、順序を表す言葉に着目することが大切です。
- 2 長い文章を短くまとめるときには、文章の構成などに注意して読むことが大切です。
- 3 内容を的確に押さえるためには、理由や根拠となっている内容などに注意して読むことが大切です。

取り組んでみよう！

■ 次の――線部のカタカナを、漢字でていねいに書きましょう。

- 1 カナラず持って帰る。

- 3 道を通りスぎる。

- 2 キョウリヨクして行く。

- 4 よくハンダンする。

答え

嫌味 ヲ （ズギ） 駅 3 4 辞 2 （ず） 必 1

二学期末問題（第四回） 国語 小六

■ 正 答

一 1 エ

2 ②

3 (例)

私は、投書①の、「体に無理な負担をかけてまでスポーツをすることはいい」という意見に反対です。理由は、練習方法を改善すれば、体をこわすことはないと思うからです。（七十九字）

(例) 私は、投書②の、「勝利を求めなければ、人は努力をしない」という意見に反対です。なぜなら、勝ち負けのためだけではなく、上手になりたいという気持ちで努力をすると思うからです。（八十五字）

二 1 ウ

2 「百聞は一見にしかず」

■ 考 え 方

一 1

投書は書き手の考えが述べられている文章です。まず、見出しに着目して書き手のおおまかな考えをつかみましょう。次に、この投書は、はじめと終わりに書き手の考えが述べられている構成ですので、この部分に着目して情報をとらえましょう。

アの「体に負担をかけるスポーツ」、イの「スポーツはけがをしないことが目的」、ウの「練習時間の長さ」と勝利」の部分、書き手が扱っていない内容ですので、誤答です。

このように、文章や資料等から情報を的確にとらえるためには、全体の構成や見出しなどに着目し、文章や資料全体の書き方の持ちようをふまえた上で、読み手にとって必要な情報を見付けることが大切です。

2 書き手が、読み手を説得するために、理由を付けたり、根拠を挙げたりしている部分に着目します。投書①は「自分の実際の経験」を述べているのに対し、投書②は「見たり聞いたこと」を述べているので、正答は②です。

3 文章全体から書き手の主張がどこにあるのかを見付け出します。自分の意見が、どちらの投書の主張に支持できないのかを考え、投書に書かれている理由や事例を参考に分の考えを明確にすることが大切です。

二

1 普段から、複数の内容の一つにまとめて簡潔に書いたり、二つ以上の内容が含まれた一文を内容ごとに複数の文に分けて書いたりするようにすると、表現する力を身に付けることにつながります。

2 ことわざなどを用いる時には、「」を付けた方が読みやすくなります。

取り組んでみよう！

○ 次の文章の……線部と……線部とのつながりが合っていない文の番号を①から④までの中から一つ選んで書きましょう。また……線部はそのままにして、意味が変わらないように、選んだ文の……線部を正しく書き直しましょう。

① ぼくは、家で国語の勉強を毎日がんばりました。 その努力は実りました。② ぼくは、冬休み明けのテストで満点をとることができました。 ③ 冬休みは、とてもじゅう実したものになりました。でも、反省していることもあります。

④ 反省点は、お手伝いをあまりしませんでした。 これからは、勉強だけではなく、お手伝いもがんばりたいと思います。

番号

書き直した文

答 え

「。ふんすこし、いひつり手あそいひきけ」(例)

⑦ 音楽

学年末問題（第六回） 国語 小六

【児童用】

■ 正答

1

一 4

二

1 イ

2 ア

3 エ

三

1 エ

2 ウ

2

一 2

二（例）専門学校でいろいろな料理の基本を学んだ。（二十字）

三（例 1）

焼き立てのパンが店にならび、お客様のうれしそうな声が聞こえた時は、パン職人をやっていてよかったと実感する。（五十三字）

（例 2）

焼き立てのパンができあがり、お客様から「おいしそう。」などとかん声が上がると、パン職人をやっていてよかったと実感する。（五十九字）

3

一 イ

二 活動日、活動場所 （完全解答）

三（例 1）

少しおそかったので、来年の委員会の人たちには、よびかけを早めに行つてほしいです。（四十字）

（例 2）

もう少し早ければよいと思ったので、来年の委員会の人たちには、活動計画を見直してほしいです。（四十五字）

■ 考え方

2

三 【特に心に残ったこと】の「お客さんが喜んでくれた時には、やりがいを感じる」とができるんだな。」という部分をふまえ、【資料 2】の「◆どのような時に仕事の喜びを感じますか。」の記述から適切な内容を取り上げて書くことが大切です。

3

三 石川さんの【構想メモ】の「活動のまとめ」の三つ目に注目するとともに、〈条件〉に合わせて書くようにすることが大切です。

意図・立場を明確にして話し合う

基本問題

解答	
1 (1) イ (2) ウ (3) オ (4) ア 2 (1) イ (2) ア (3) ウ (4) エ	
アドバイス	1 話すときは、まず話す内容と自分の考えをきちんとまとめます。その上で、聞く人によく伝わるように工夫をしましょう。 2 話を聞くときは、話の内容と話す人の考えを正確に聞き取ります。そのために必要な注意点を考えましょう。

意図・立場を明確にして話し合う

チャレンジ問題

解答	アドバイス
(2) (1) 2 ○ × (4) (3) (2) (1) 1 ア ウ エ イ	1 2 話し合いのテーマ・目的を見失わないように注意しながら、適切な態度で話し合いを進めましょう。

相手を目的に応じて話すこと

基本問題

解答	アドバイス
◆ (1) ア (2) ウ	◆ 敬語には、大きく「尊敬語」「謙譲語^{けんじやうご}」「丁寧語^{ていねいご}」の三種類があります。何がだれの動作か、だれが目上の人か、などに注意して、敬語を使い分けられるようにしましょう。 (1) イ・ウは尊敬語なので、自分に対して使うのはふさわしくありません。

相手や目的に合わせて話すこと

チャレンジ問題

解答	アドバイス
◆ (1) うかがい (2) ア (3) ア	◆ (1) 「行く」「来る」の謙譲語と、「聞く」の謙譲語は、 どちらも「うかがう」になります。



書く事柄がらや組み立てを考えて書く

基本問題

解答	
(3) (2) (1) ウ カ オ	文章の書き出しは、読む人の関心をひくためにとても重要です。文章の内容・構成にふさわしい書き出しを工夫しましょう。

書く事柄や組み立てを^{がら}考えて書く

チャレンジ問題

解答	アドバイス
◆ (1) (例) それは、五年前のことでした。ぼくは当時、アメリカに住んでいました。 (2) (例) わたしは、冬より夏の方が好きです。なぜなら、わたしは寒がりだからです。 (3) (例) ピンポーン。げん関のチャイムが鳴った。ぼくは、だれだろうと思いがらドアを開けた。 (4) (例) 人生で最も大切なものはなんだろうか。わたしはずっと考えてきた。	◆ いろいろな書き出しの文章を実際に書いて、書く力をのばしていきましょう。

目的や意図を考え、表現を工夫し書く

基本問題

解答	アドバイス
(2) (1) 2 ア ウ (2) (1) 1 イ ウ	1 ことばを学習するときは、意味だけでなく、そのことばを用いた例文もいっしょに確かめるようにしましょう。 2 さまざまな表現の工夫の学習は、読む力をのばすことにも役立ちます。

目的や意図を考え、表現を工夫し書く

チャレンジ問題

解答	アドバイス
1 (1) (例) 母の返事はそっけなかった。 (2) (例) わたしは、かろうじて生き延びた。 (3) (例) 相手の表情から、気持ちをおしはかる。 2 (1) (例) ボールは、キーパーの手をすりぬけた。そして、そのままゴールに飛びこんでいった。 (2) (例) そこには、落ち葉が厚く積もっていた。そっとふんでみると、じゅうたんのようになやわらかかった。 (3) (例) 返ってきたテストを見て、おどろいた。なんと百点。うれしくて、つい声を出してしまった。	1 文を実際を書く練習を通して、ことばの使い方をしっかり身につけましょう。 2 表現の工夫を用いることで、文章がずっと豊かになります。いろいろな表現の工夫を組み合わせる練習にもちよう戦して、より長い文章を書けるようになりましょう。

説明文を読むこと

問題

解答	アドバイス
◆ (1) (れい) 春の七草を入れたおかゆを食べれば、その年は病氣知らずで健康に過ごせるということ。 (2) ① ウ ② イ (3) 春の七草 (4) ウ	◆ (1) 「一見、迷信のようでもある（が、そうと言われていくこと）」の内容を、直前に書かれていることからまとめます。 (3) 傍線部^{ほうせんぶ}をふくむ「それらを、胃にやさしいおかゆにして食べることで、正月中に飲み食いして無理がたたった体を、内側から温かくいやすことができる食べ物」とは、七草がゆのことです。ですから、「それら」にあたる「おかゆにして食べる」ものとは、春の七草ということになります。 (4) 「現代のような飽食^{ほうしょく}の時代にあっては、このような質素な食べ物が消えていくのも当然のこと、いたしかたないことなのかもしれない。ただ、どこかもつたいなく、さびしい気もしてくる。きたる正月には、古き良き食文化の一角をなす、この七草がゆを食してみてはいかがだろうか」という部分が、ウの内容と合っています。

物語を読むひと

問題

解答	アドバイス
(1) 首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬 (2) ウ (3) ウ	(1) このあとの本文中で、「ただ学校の帰りらしい、洋服を着た子供が二、三人、首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬を引きずりながら、何かわいわい騒いでいるのです」と、この場面を説明している部分があります。ここから十六字で「首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬」を書きぬきます。 (3) 白は茶色の子犬を助けたあと「さあ、おれといっしょにこい。お前の家まで送ってやるから」と言っ、子犬を家まで送り届けてやります。

漢字の読み・漢字の書き、送り仮名

基本問題

解答	アドバイス
1 きせい うめ (2) ぎょこう (4) ふなたび 2 副題 水辺 (2) 投票 (4) 治(る) 3 短い (2) 別れる	1 漢字には、いくつかのちがった読み方を持つものがあります。きちんと読み分けられるようにしましょう。 (1) 「省」には、「せい」「しょう」という音読みがあります。 (4) 「船旅」の場合は、「船」は「ふな」と読むので、気をつけましょう。 2 読み方が同じことばでも、書く漢字がちがうことがあります。しっかり書き分けられるようにしましょう。 (4) 「なおる」には、ほかに「(故障などが) 直る」があります。 3 送り仮名については、一つ一つ確実に覚えていきましょう。

漢字の読み・漢字の書き、送り仮名

チャレンジ問題

解答	アドバイス
(3) (1) ③ 任せる 必ず (4) (2) 断る 浴びる (5) (3) (1) ② 布 新居 便利 (6) (4) (2) 似(た) 築(く) 留学 (5) (3) (1) ① つね あいご そこう (6) (4) (2) やまい つみ ひりき	(1) ① 「素」「行」、 (2) 「カ」の読み方に注意しましょう。

熟語の組み立てを知ること

基本問題

解答	アドバイス
(2) (1) 3 イ ア (3) (2) (1) 2 ア オ イ (3) (2) (1) 1 ウ ア イ	1 (1) 「再発」は、上の字が下の字を修飾しゅうしやくしています。 (2) 「登山」は、「ゝに・ゝを」にあたる漢字が下にあるものです。 (3) 「完全無欠」は、「完全」「無欠」という、似た意味の熟語が重なっているものです。 2 どの熟語にどの打ち消しの語がつくのか、一語ずつしっかり覚えていきましょう。 3 熟語を学習するときは、同意語もいっしょに覚えようと、漢字の読み書きや読書に役立ちます。

熟語の組み立てを知ると

チャレンジ問題

解答	アドバイス
(2) (1) 3 ウ ア (3) (2) (1) 2 ア エ ウ (5) (4) (3) (2) (1) 1 ウ エ エ ア イ	(1) 1 「軽重」と「高低」は、対になる漢字の組み合わせです。 (2) 「市営」と「骨折」は、上の字と下の字が主語・述語の関係になっています。 (3) 「強風」と「曲線」は、上の字が下の字を修飾しています。 (4) 「習字」と「加熱」は、「く・くを」にあたる漢字が下にあるものです。 (5) 「東西南北」と「花鳥風月」は、四つの漢字が対等の関係で結ばれている四字熟語です。

文や文章の構成についての理解

基本問題

解答	アドバイス
1 (1) ア (2) ウ 2 (1) ウ (2) イ (3) ア (4) オ	2 あとにくることばと組になって、話し手の気持ちを表すことばは、受けることばが決まった形になります。 (1) 「くか」と、疑わしく思う形で受けることから考えます。 (2) 「くだろう」と、おしはかる形で受けることから考えます。 (3) 「くください」と、何かをたのむ形で受けることから考えます。 (4) 「くたら」と、仮にそうだとする形で受けることから考えます。

文や文章の構成についての理解

チャレンジ問題

解答	アドバイス
(6) (5) (4) (3) (2) (1) ク コ カ オ ア ウ (2) 2 (2) (1) ウ イ 1	(1) 1 (1) ア・ウ・エは人から伝え聞いた「そうだ」、イはおしはかる「そうだ」です。 (2) ア・イ・エはほかから動作を受ける「られる」、ウは「ゝできる」という意味の「られる」です。 2 あとにくることばと組になって、話し手の気持ちを表すことばを学習するときは、受けることばの形だけでなく、同じような意味を持つことばも覚えるようにするといいいでしょう。

敬語についての理解

基本問題

解答	アドバイス
1 (1) (2) (3) アイウ 2 (1) (2) (3) (4) ウアイウ	2 (1)・(4) 丁寧語には、「お・ご」「～です・～ます・～でございます」という形があります。 (2) 「くださる」は、「くれる」の尊敬語です。 (3) 「うかがう」は、「聞く」「質問する」「訪問する」「行く」「来る」などの謙譲語です。

敬語についての理解

チャレンジ問題

解答	アドバイス
1 (1) イ (2) ア (3) ウ (4) オ 2 (1) 申して(申し上げます) (2) ○ (3) ○ (4) ○	1 (1)・(4)は、自分が動作の主体となっているので謙譲語を使います。また、(2)は「先生」が、「お客様」が、それぞれ動作の主体となっているので、尊敬語を使います。 2 (1) 身内である父が動作の主体となっているので、謙譲語を使います。 (2) 自分が動作の主体となっているので、謙譲語を使います。 (3)・(4)「お(ご)くなる(なさる)」は尊敬語、「お(ご)する(いたす)」は謙譲語です。